

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2012年4月～2013年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立大谷中学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
住所 〒988 - 0273
宮城県気仙沼市本吉町三島60-4
E-mail : ohyachu@motoyoshi.ed.jp
児童生徒数：男子 53 名 女子 46 名 合計 99 名
児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者

3. 実施活動 (複数選択可)

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

①「ふゆみずたんぼ」について

「ふゆみずたんぼ」は冬の間、田んぼに水を張ることで鳥たちが集まり、そのふんや刈り残した稲株が分解され、微生物やイトミミズの栄養源となる。そして、微生物や小さな生きものが繁殖し働くことで田んぼが耕され、天然の肥料となって、稲を育ててくれる。さらに、その小さな生き物を食べるためにさまざまな生物が集まることで田んぼの自然のバランスが保たれ、稲を害虫や病気から守ることにもつながっていく。このように、農薬や化学肥料に頼らず、機械で耕すこともなく、自然の力を活かしながら、生きものの循環の中で稲を育てるのが「ふゆみずたんぼ」である。大谷中学校では、大小4つの田んぼを使い、3年生を中心として、種粃まきから、苗代づくり、田植え、稲刈り、雑草取り、脱穀、販売まで行っている。

②活動の評価の観点と方法

（総合的な学習の時間「なみま」の観点で評価し、文章で記述）

<観点>

- 課題設定への取り組み：学習への意欲、関心をもち自ら課題を見付け、課題を設定する能力
- 課題のまとめ方：自ら考え情報を集めたりまとめたりしてよりよく課題を解決する能力
- 課題解決への主体的な取り組み：課題解決や探究活動に主体的に取り組む態度
- 自己の生き方：自らのよさや可能性に気付き、夢や願いの実現に向けて行動する態度

③平成24年度のESDの実践の成果

ア：プログラムや活動の改善の視点から

「地域に根ざした教育」が根底にあり、震災後の地域の復興も視野に入れた活動を展開することができた。エネルギーの自立という視点を取り入れたり、津波で侵食され海岸線にあらわれた地層を調査したりと、現在の状況に応じた活動を進めている。再生した「ふゆみずたんぼ」には、多くの人々が関わりをもち大きなネットワークに進展している。

イ：生徒の変容（資質・能力、態度）の視点から（生徒の感想からの抜粋）

- ・資料だけでなく実際に見て感じることも大切なんだと思いました。
- ・田んぼの感触、ご飯のありがたみ、1粒のお米を作るには大変だということなどたくさんの事を学ぶことができました。
- ・総合的な学習の時間「なみま」の学習を通して、自分から仕事を見つけて動けるようになったと思います。
- ・パソコンの入力や調べ方とまとめる力が前よりは身に付いたと思います。「なみま」は楽しいので頑張っていきたいです。
- ・「なみま」のまとめなどをしていくうちに、簡単に分かりやすい文章を書けるようになったと思う。
- ・「なみま」の活動をして自然と関わっていくたびに環境に対する

